

# エンジニアリング Q&A

## 小口径推進工法（低耐荷力圧入二工程・低耐荷力オーガ工法）の設計・積算について

**Q** 低耐荷力圧入二工程・低耐荷力オーガ工法の設計・積算に当たっての注意（3）の中で、「地下水位の高い砂層等で切羽から土砂の流入が予想される地盤には適さない」との記述があります。

この記述に関し、適用土質や礫の最大径・礫分についての具体的な数値がないように思えますが、どのように判断すればよいのでしょうか。

また、一つの考え方として、判断する具体的な数値について、「日本下水道管渠推進技術協会の推進工法用設計積算要領」の数値を採用するというのはどうでしょうか。

**A** 設計標準歩掛には、「地下水位の高い砂層等」と総じて記載されていますが、切羽から土砂が流入するような条件か否かは現場条件をよく調査のうえ、コンサルタントやメーカー等に施工可能か確認するほうがよいでしょう。推進位置に礫分があるならばなおさらです。

日本下水道管渠推進技術協会の設計積算資料を適用することに問題はありませんが、どちらの区分にするか悩ましい場合など、やはり現場の条件をよく調査のうえ、コンサルタントやメーカー等にも相談するほうがよいでしょう。

## 下水道土木工事必携（案）における管布設工の出来形管理基準について

**Q** 下水道土木工事必携（案）における管布設工の出来形管理基準によると、管底高及び中心線の変位等はマンホール間の中央及び両端部を測定することとなっているが、中央部の測定及び検査はどのように実施しているのでしょうか。

**A** 管布設工の出来形管理基準及び規格値には、現状ご質問のとおり記載となっております。1スパン中央部の測定については、かなり以前の根拠により標準として記載されているものですが、作業員が測定作業できる管径（800mm以上）での適用となります。それ未満の管径での出来形確認では、目視により「たるみ」、「蛇行」が無い、もしくは許容範囲内であることを確認することが多いようです。

各団体が「下水道土木工事必携（案）」を素案としてご活用いただき、地域の実情などを考慮して、より適切な基準を策定されることを望むものです。